



キスでぜんぶ
とけていった

for
Adult!
R18



キスでぜんぶ
とけていった

*ふたなりご注意！

キスでぜんぶとけていった

パロディが含まれているのでご注意！

まどかちゃんが吸血鬼の先祖返りでふたなり。

原作：くーたろうさん
マンガ：8







かああ

ドキ

なめ...ころ

ドキ

ズン

ドキ

ズン

は

は

ん

ちゅっ

ちゅっ

は...

駄目なのに

中学生で
こんなこと...

むく

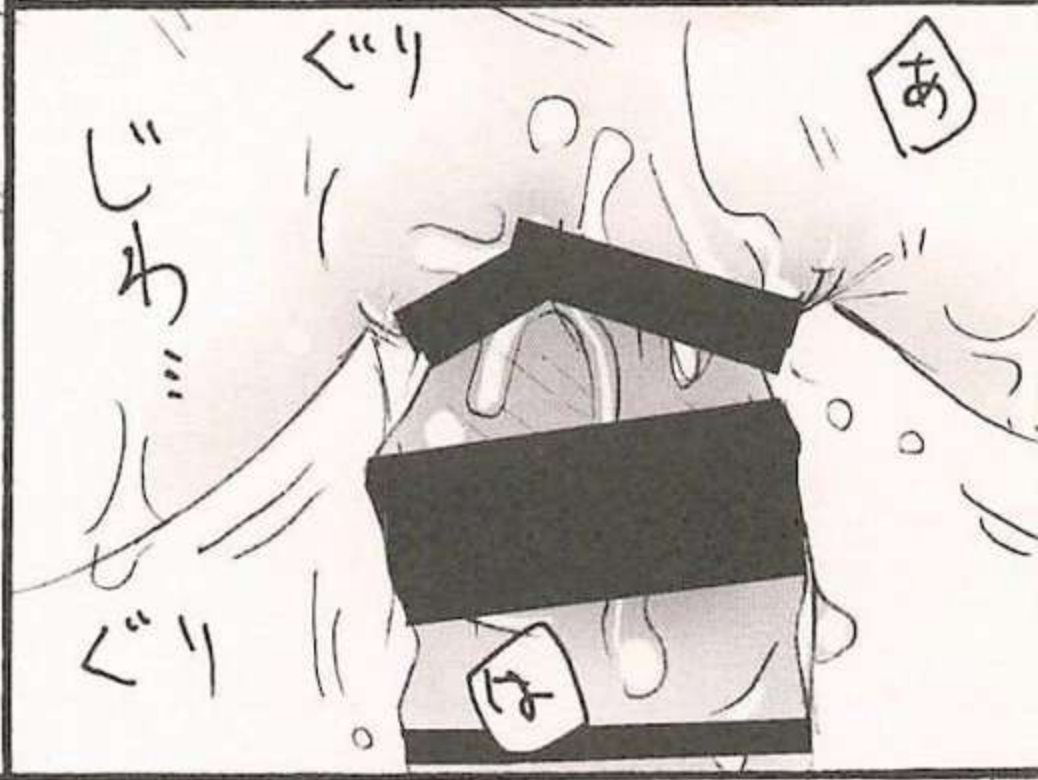
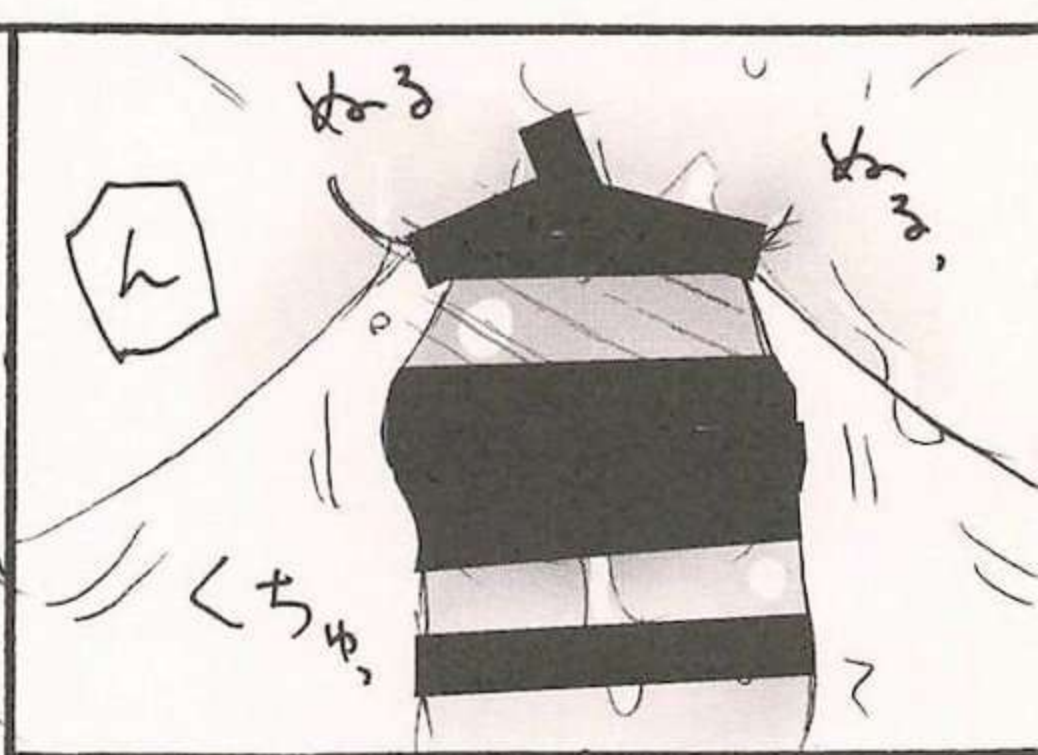
いけない
のに

ほむらちゃんの
初めて

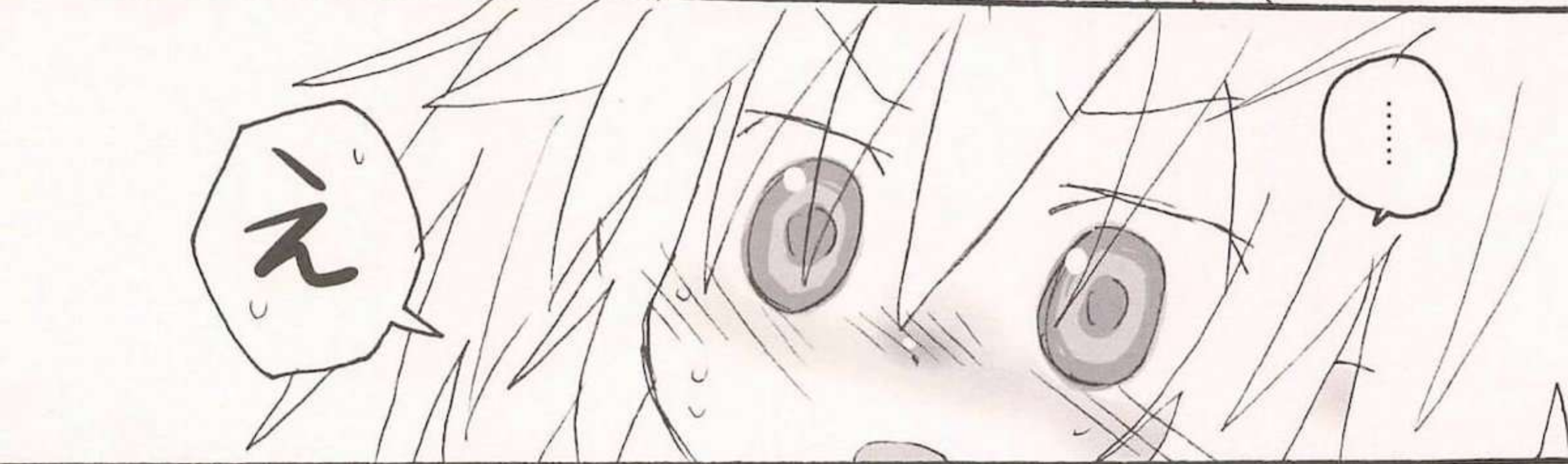
もらって
いいわほ
ないのに！











まどかが
好きで：
吸われた後
体が熱くて

それで：
まどかの
お母様に
聞いたら
その……

!? ママああ!!

まどかも
変なとこで
身持ちが
硬いし……

何言っ
てるの？
ねえママ
何言っ
てるの？

……お、
襲わないと
逃げられ
続けるっ
……だから

んっ

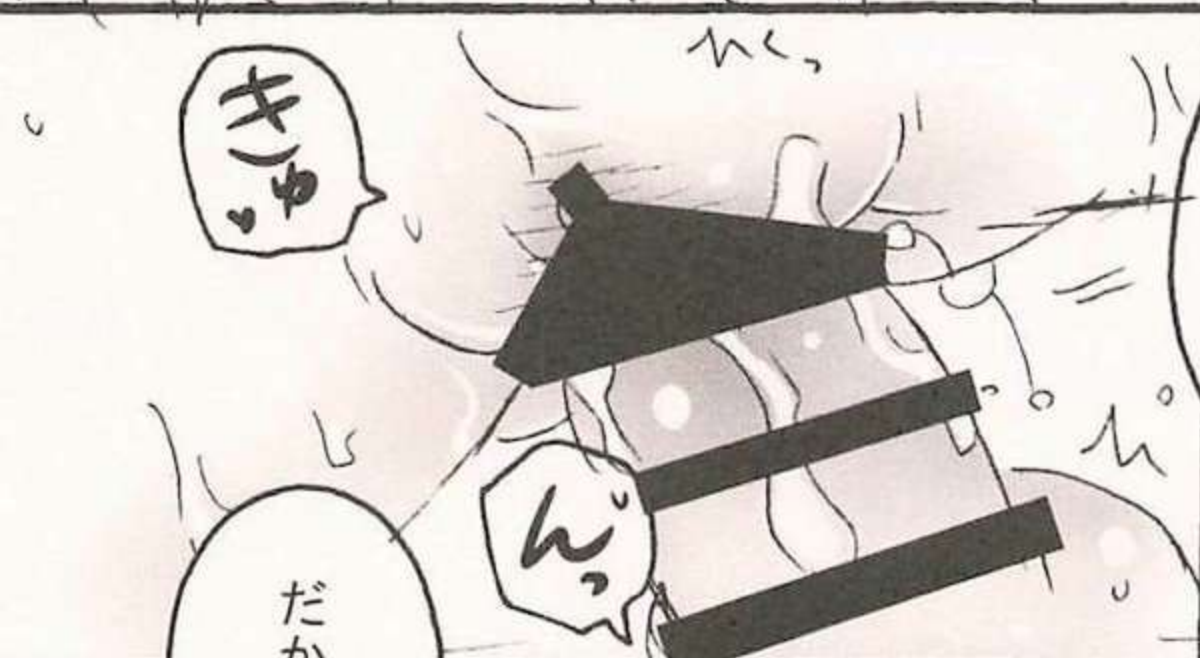
でも
私達まだ
中学生だし……



好きで…



私は
まどか
が好きか



まゆ

だから



まどかあ…

だから



ほむらちゃん
…いたくない？

大丈夫
魔法で
消してるから

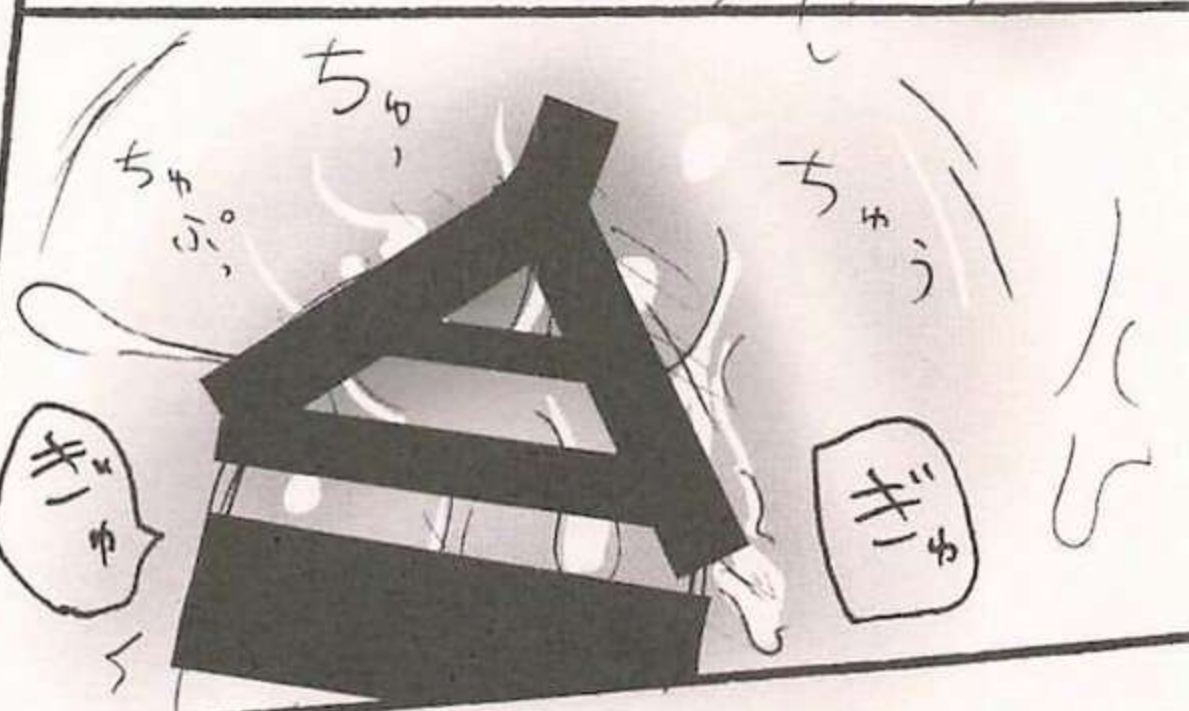
…まどかの

うごく、ね

どいで
そんな言葉
知ったんだらう

すきに
して？







これ……

あ

あ

ズンズン



ズンズン

ほむら
ちゃん……

ここの
いいんだ

じゅじゅ

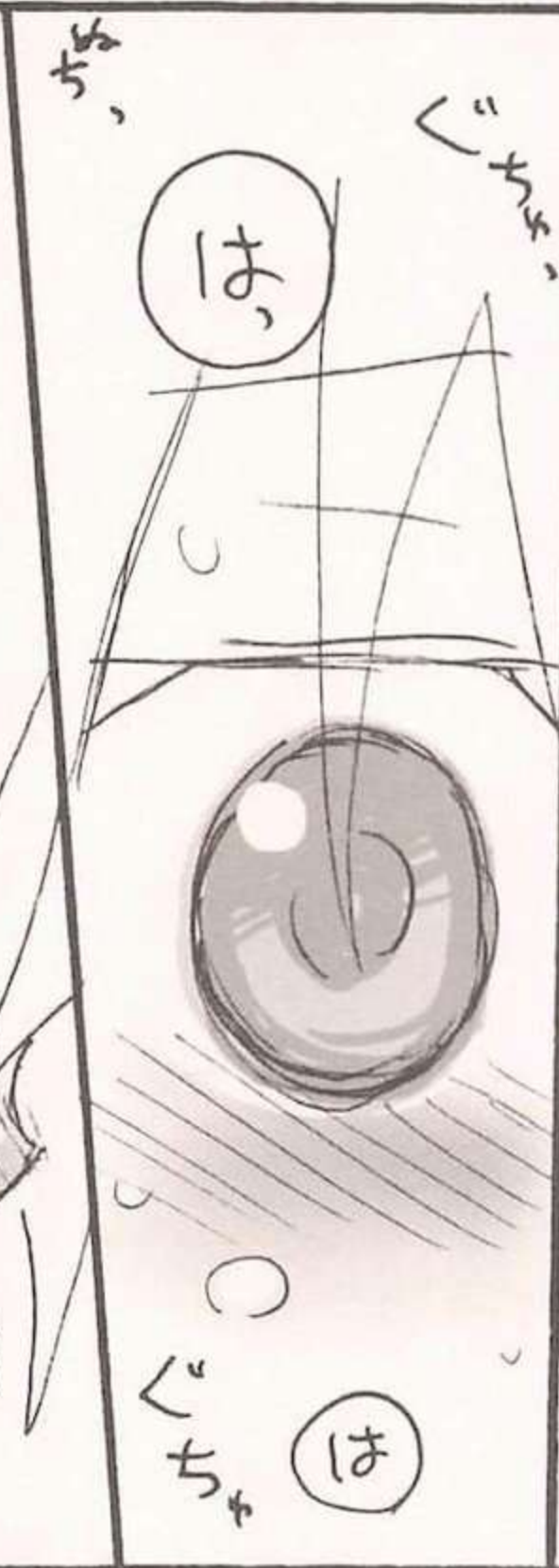
しよれ
ばっかりっ

きゅん

きゅん

ズンズン

ズンズン







ほむら
ちやっ

しな
てにっ

ぜんぶっ
ほしいのっ

びくっ



まろか

あ

まっ

まっ
ほむら
ちやっ

ほしい
のっ……!

まがっ

びくっ

ゆきっ

ゆきっ

ちやっ









……
魔法で
避妊できる
から……

……出して
も
平気よ



赤ちゃん

できちゃうよ
……これ



言ったら
してくれた？

心臓に
悪すぎる
から



……
そういう
ことは
先に
言おうよ

あ
あ
あ



まどか



それは



駄目じゃ
ないけど

……言いたいこと
たくさんあったのに

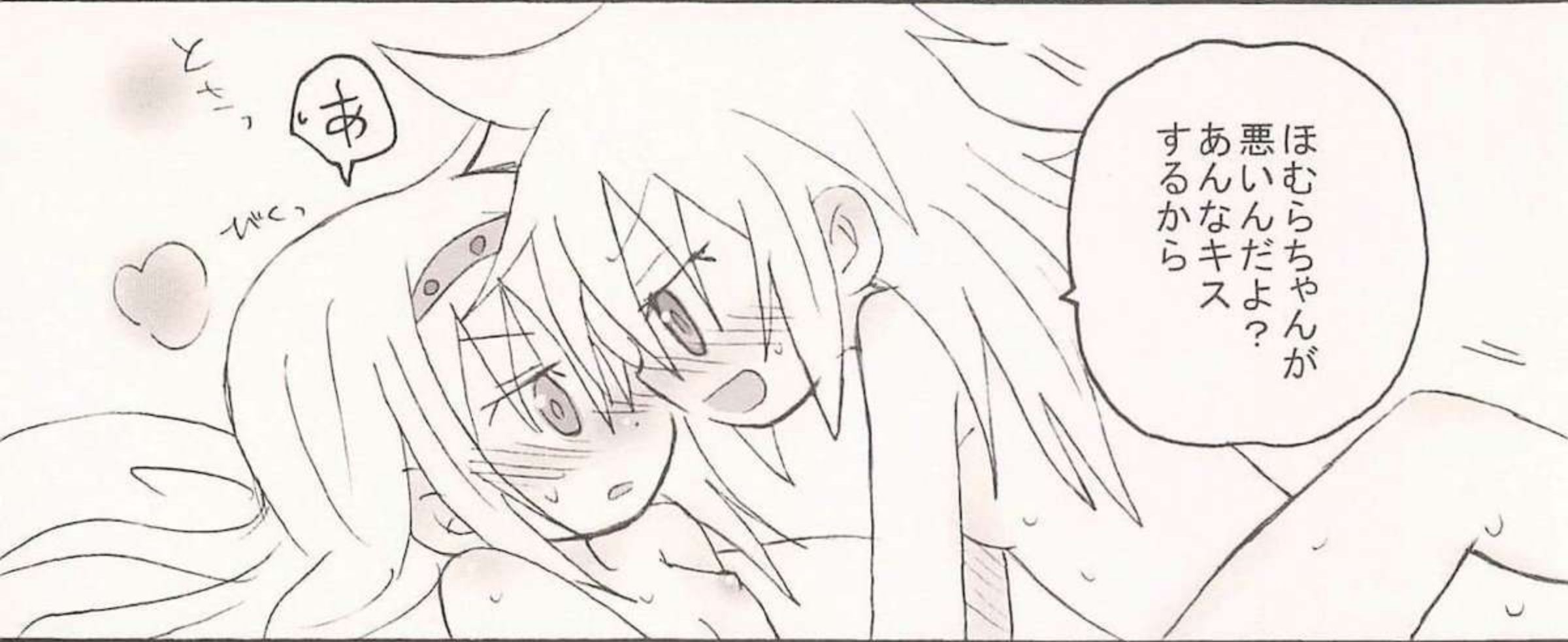
かあ……

ああ、もう
そんな顔

——幸せで
仕方がないって
顔をされたら
何も言えないよ

ほむらちゃん

ちゅっ





夜はまだ長いから
たくさん繋がって
たくさんお話しようね

おしまい

ご飯はあなた



次のページからは
くーたろうさんの小説ですw
お話書いて下さりとても感謝です！
ありがとうございます！
えろえろw

それではどうぞw

「飯はあなた

くーたろう

——朝食ができたから、起きてと声をかけられた所まではまだ大丈夫だった。

優しく揺らされる体は意識と一緒に夢の現実の間を行ったり来たり。

せっかくのゴールデンウィークなんだから、もつとゆつくり寝てもいいじゃないか。布団にも、枕にも、シーツにもほむらちゃんの匂いが染みこんでて、それに包まれて幸せなのに。

昨日は遅くまで二人で愛し合っていたんだし、二度寝ぐらいは許されると思った。そうやって夢にへばりついていて私を起こすことをほむらちゃんは諦めてないようで、執拗に声をかけられる。

それで、嫌々ながらに目を開けたのが、いけなかった。

「——」
「まどか？」

真っ白な肌は日の光に照らされて、その白さをより一層際立たせてる。濡羽色の髪も同じで、黒曜石みたいに煌めいていた。

裸、と一瞬思った。けど違う。桜色の、フリルがたくさん

付いているエプロンだ——それだけを身につけて、ほむらちゃんは私に覆いかぶさっている。

どきり、と心臓が高鳴りだした。止まらない。鼓動はどんどん早く、強くなっていく。

……たぶん、寝起きじゃなければ、昨日あんなに愛し合っ
てなければ、大丈夫だったと思う。

だけれど、まだ思考の半分は夢に浸かっている、ほむらちゃんの首元にある歯型やキスマークは昨日の熱を思い返すには十分過ぎる。

「ほむらちゃん——」

そんな格好、するからだよ？

ベッドの中に、引き釣りこんだ。



「はあっ、あっ、まるっ、やあっ」

「ん、ちゅっ、んんっ」

小さく口を開け、何処に噛み付こうかと頭の隅で考えながら私は腰を振っていく。

耳につく水音は脳まで響いて、背筋が震える。くっついてるあそこその下のシーツはもうほむらちゃんの愛液でびしょ濡れだ。

全身、どこに触れても気持ちいい。汗でじっとり湿ってる肌はくっついてるようで、まるで溶け合ってるような錯覚を得る。

固くなった胸の先を丁寧に舌で転がしたり、甘咬みする。優しく、強く。速く、遅く。不規則な快感をほむらちゃんに注いでいく。その度に、ほむらちゃんは甘い声を出してくれて、中は私の固くなったものにしがみつくいてきて、可笑しくなりそうだ。

「まろかあつ、や、やあつ、もつやめつ、ん……」

「ちゅつ、はあつ、んんつ、……なんで？」

キスして、たっぷり口の中を愛撫すると、ほむらちゃんは恥ずかしがるように目を横に逃して、

「だ、だって、っあ、あさごはんつ、さめつ、んつ、ちやうからあつ……」

なんて、消え入りそうな声で言った。

「……んー」

あさ、ごはんかあ。そう言えば、まだ食べてない。起こしに来たほむらちゃんをそのままベッドに押し倒してたから。

ごはん、ね。

キスの雨をほむらちゃんの顔中に降らし終え、私は一旦体の動きを止めた。

「……まどか？」

「朝ごはんなら、大丈夫だよ」

だって、目の前にこんな美味しそうな馳走があるんだから。

涙で薄っすら濡れたアメジスト。雪のように白い肌は火照って、喉が鳴る。

つう、と指でほむらちゃんの肌を撫でた。それだけでも感

じるのか、息を荒くするほむらちゃん。そんな彼女に見せつけるようにわざとゆっくり口を開け、胸の部分に歯をたてた。薄い、血管が透けて見える柔肌を噛み破る。

「んつ、ちゅつ、んんつ」

「ひつ、ああつ、まっ、あつ、ああつ」

溢れる赤い赤い、血を啜る。心臓に近い場所。だからか、まるでほむらちゃんを本当に全部、食べているようだ。

「はむ、ん、ちゆるっ」

「やあつ、いっしよつ、らめつ、やあつ」

血を飲みながら、舌先で胸の先っぽをいじめるとほむらちゃんの手も足も、全部使って私に抱きついてきた。

その拍子で、犬歯がより深くほむらちゃんの胸肉に食い込んでしまい、血が溢れだす。

「んんつ、はあつ、ん」

「ふあつ、あつ、やつ」

喉を鳴らし飲み込みながら、私はゆっくりと腰の動きを再開した。

胸に噛み付いてるから、大きな動きはできない。だから代わりに、一番奥の部分に熱を押し付けて、揺する。

「らっ、らめつ、いっしよつ、ひあつ、んんつ」

「はあつ、そんな、ことつ、言っても、……ん、ちゆる」

止まれないよ。気持ちよすぎて、幸せすぎて。

血は甘くて、熱くて——飲む度に、一つに混ざっていくように。変な味なのに、ほむらちゃんのものだから、飲みたくて堪らない。



腰の熱が震える。

ゆっくり動いて、もつとほむらちゃんを食べていたいのに。ほむらちゃんの中はさつきからきつく締まって、びくびく痙攣しだしてる。まるで、中に出してとお願いされてるみたいだ。

「あつ、はあつ、まろかつ、まろかあつ」

頭上。すぐ近くから聞こえる声も、甘く蕩けていて。そんな声で、名前を呼ばないで欲しい。我慢してるのに、もつと聞きたくて、もつと感じて欲しくて、体が動いてしまうから。

舌で胸を舐めると、ほむらちゃんの中が私のを舐めて。

甘咬みすると、引っ付いて、離れてくれなくて。

愛してるのに、愛されてる。

段々意識が浮ついてきた。愛される快感で体が一杯で、溶け合う幸せが今にはじけ飛びそう。

もう、限界だ。

口を胸から外して、喘いでいるほむらちゃんのそれと重ねる。

そうして、声さえも私と一緒に混ぜて、溶け合わせて、

「んっ、ふあ——っ」

「あつ、ひゃあつ——」

全身、震えた。我慢してた腰の熱が、ほむらちゃんが一番奥を汚していく。

脱力感に身を任せて、そのまま私はほむらちゃんの上に乗った。

震えも、熱も、鼓動も、想いも、何もかもが重なっている

ように感じてしまう。

そう思うと、また、下腹に熱が集まりだす。

……いい、よね。今日も、明日も、休みだし。買い物はまた明日で。

今は、ほむらちゃんともつと重なりたいから。

「ほむらちゃん」

「っ、あつ、はあつ、まど、か……？」

「おかわり、してもいい？」

ちゅっつと、軽いリップ音を立てながらほむらちゃんの唇にキスをした。

「いやっていても、やめないくせに……」

「ほむらちゃん嬉しいくせに」

紫の目は、しばらく私を見据えた。吐息して、

「……いいけど、そのかわり」

「代わりに？」

「……こんどは、やさしく、して」

お願い、と請われたが、そういう言葉は逆効果なんだよ、ほむらちゃん。

「……うん、できるだけ、優しくするね」

どれくらい、理性は持たさうか。

多分出来ないだろうけど、ほむらちゃんからのお願いだ。なんとか我慢してやってみようと思いつつ、私はほむらちゃんにキスをした。

まどかは
吸血鬼よね？

へんしん

その…
変身したり
とかはしないの
かしら？
コウモリとか…

わく

ほむら
ちや—

ほむらちゃん
次第かな

…

ほむらちゃんが
がんばって(?)
くれれば
なれるよ！
(たぶん)

がばあ

あ

え？
それって
どういう…



まどかが NO の場合



きよ…
今日は
勇気を
だして…



さらあかても
しかたない…



え、そうよね…
いつも私
NO だから…



ごめんねごめんね
ただちよつと
試してみたかった
だけで！
私はいつでも
YESだよ！



まどかちゃんが NOだと
ショックなほむ



20140815
ROUTE885/8

印刷:Print Walk様

pixiv:6688600
wswhi643@yahoo.co.jp

2014
ROUTE 665